

寺報

No.637

令和2年9月

蓮華寺
發行

御聖訓

父母兄弟の死して候時、初七日
と云事も知らず、増て四十九日、
百箇日と云事も、一周忌と云事も
第三年と云事も知らず、訪わざら
ん志の程、淺猿し
かるべし、聖靈の
苦患をたすげずん
ば不幸の罪深し。

『回向功德鈔』



(解説)

皆さんは身内に不幸がありますと、お通夜・お葬式と行い、その時には

「さあ、これから仏様の為に一生懸命に信仰してください。」と決意を新たにされるものです。

しかし時が立つに連れて、その気持ちも段々に薄れいつの間にかおろそかになってしまふ人が多いようです。

日蓮大聖人は、それをこう戒めています。

「父母兄弟が亡くなった時、初七日忌という事も知らず、まして四十九日忌・百ヶ日忌・一周忌・三回忌という事も知らない者がいる。

これを勤めようとしなない人は、淺知恵の猿のような者といえよう。

死者の犯した生前の罪を、少しでも助けようとしな
いのは、不幸者の罪といって罪深い事である。」

我々法華経・お題目を唱える者は、常に変わらぬ気
持ちで、信仰を貫いていかなければなりません。

そしてそれに加えて、我々の心に備わっている仏性
に目覚めていければ、この世は素晴らしい仏様の世
界となっていくのです。

『秋彼岸会』のお知らせ

九月十九日(土)・二十一日(火)・二十五日(金)

場所：小本堂

*法要

午前八時より午前九時まで

*法話

約十分間

十九日	序品第一・方便品第二・ 欲令衆	お経・・・訓誂	法話
二十一日	提婆達多品第十二	對馬上人	住職上人
二十五日	如来神力品第二十一	塙上人	塙上人

⑨『秋彼岸会』の法要は三日間ですが、ご先祖と仏様のご供養は、残り四日間『朝のお勤め』の中で読み上げさせて戴きますので、ご安心下さい。

秋彼岸会法要次第

- 一、道場偈 (僧侶が唱えます)
 - 一、勸請 (導師が唱えます)
 - 一、開経偈 (無上甚深)
 - 一、お経 (日程表をご覧下さい・日本語読み)
 - 一、運想 (唱え奉る妙法は)
 - 一、お題目 (南無妙法蓮華經)
 - 一、宝塔偈 (此経難持)
 - 一、回向 (導師が唱えます)
 - 一、お題目 (南無妙法蓮華經・僧侶は供養の読上)
 - 一、お経 (如来寿量品第十六・漢字読み)
 - 一、お題目 (南無妙法蓮華經)
 - 一、付回向 (導師が唱えます)
 - 一、四誓 (衆生無辺誓願度)
 - 一、お題目三唱
- 法話・・・約十分間

⑩お経は要品の訓誂 (日本語読み) ですので、お経本はお寺でお求め下さい。

以上

お寺からのお知らせ

*先祖供養 (一週間)・・・八百円

お彼岸の先祖供養は、お彼岸前に申し込みますと、一週間、またその後申し込んだものでも、「彼岸明け」まで供養を続けさせて戴きます。どうか、ご供養は出来るだけ、お彼岸前日迄にお申し込み下さい。

*追膳 (一週間)・・・三千五百円

お彼岸の追膳は『位牌堂』、三階『永代供養堂』、お預かりしていますお骨の前に一週間上がります。なお、「彼岸入り」以降のお申し込みも受け付けしますが、準備の都合上、期間中、一日だけという(特定の日)の受付はしておりませんので、ご了承下さい。また、追膳は数に限りがありますので、お早目にお申し込み下さい。



お彼岸の意義

元々『お彼岸』は、仏様やご先祖様のご供養をする為だけの行事をいうのではなく、自分自らが悟りを得る為の仏道修行をする期間をいいます。インドで悟りの世界を現わす【パラミター】のお言葉が、我が国で【到彼岸】と訳され伝わったのです。つまり我々が住んでいる此の世を「此岸」とし、この「此岸」から仏様のいる悟りの世界である『彼岸』に到達するようにと願いを込め修行するというのが、本来の意味なのです。

しかしこれに反論し、日蓮大聖人はこの「此岸」と『彼岸』には区別はないと教えになり、「我々が法華經お題目を唱えている所は常に『彼岸の世界』である」と力説したのでした。ですから、我々も常日頃から『彼岸』の心を持ち修行すればよいのですが、なかなか毎日実行出来ないのが現状です。そこで、せめてこの『彼岸』の期間だけは集中して修行して欲しいものです。どうか、朝八時からのお勤めで大変でしょうが、三日間一緒に修行して下さい。

さい じょう いな り たい さい 最上稲荷大祭

九月二十二日 (火)

午後一時より

於：蓮華寺稲荷堂

『稲荷』という名は元々稲の神であり、農業の神という
意味です。それが転じて商売繁盛・開運の神様となり
ました。



- * 祈 願 . . . 八百円
- * 御法楽 . . . 八百円
- * 御神体御法楽 . 千円

◎ 「ご祈願・御法楽」をお申し込みの方に『お札』^{ふだ}を
差し上げます。
◎ 御神酒・お供物を受付けます。

最上稲荷様

稲荷という言葉はイネナリ・イネニナルが転化した
もので、元々は稲(米)の神で農業の神様です。
その後商売繁盛・開運の神となりました。
古来、キツネを稲荷様のお使いと見たのですが、いつ
の間にか稲荷様のご神体がキツネであると、間違っ
て信じている方が多いようです。
キツネはその神秘性から霊獣とみなされ、また春にな
ると山から下りて、秋に去って行くところから『田の
神』の先触れとされ、農業の神の稲荷様とキツネがこ
こで結びついたのではないかと考えられました。
またキツネの好物が油揚げで、その色もキツネの毛の
色に似ているので、油揚げを使ったお寿司をイナリ寿
司というようにもなりました。
日蓮宗でお祀りする稲荷様は、その位が一番高いとい
う事で最上位に位置され、『最上稲荷』様と呼ばれま
すが、正式には『最上位経王大菩薩』といわれます。
経王とはお経の中の王様、いわゆる法華経の事です。
つまり、法華経で説かれた【御本仏】様のお姿をお借
りして、我々を救済してくれる一番位の高い菩薩様と
いう意味となります。

檀信徒研修会のお知らせ

九月二十九日 (火)

聖典の読誦と唱題行

担当・・・住職上人

* 『聖典の読誦 (三十分)』と唱題行 (三十五分)』
☆お題目は七百回以上唱えられます。

時間：午後七時より

場所：小本堂【イス席】

持参品：聖典(事務所にて)・数珠

* 月一度の修行ですので、皆様もこの機会を逃さず、
お経とお題目を大きな声を出して唱えましょう。

* ご自分の修行の為、懺悔滅罪(反省)の為、また先
祖供養の為、と各自の目標に向い修行して下さい。

(注) 今月はお彼岸の行事の為、土曜日には出来ません。

『聖徒団会員』募集!

毎月ついでに「盛運祈願会」の中で、住職上人が
各会員の『家内安全』をご祈願致します。
その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする新聞
【聖徒タイムズ】・寺報等の援助などに活用します。
会費・・・年額二、四〇〇円(月二百円)

九月の行事

- 一日(火) 『盛運祈願会』 午後一時より
- ・ 毎月のお守り「霊神符」の交換の日です。
- ・ お勤めに参拝し、お題目とお経を唱えましょう。
- ・ 聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。
- ・ 檀信徒の皆様は、必ずお守りを持ちましょう。



十三日(日) 『日蓮大聖人のご命日』 午後一時より
 ・ お経 如来神力品第二十一 (訓読・日本語読み)
 ・ 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)
 ・ 日蓮大聖人の御報恩を忘れずに参拝しましょう。

十八日(金) 甲子【大黒様の日】 朝のお勤め中

『秋彼岸会』 【三日間】
 十九日(土)・二十一日(火)・二十五日(金)

【法 要】午前八時より
 ⑨ 『秋彼岸会』の行事は、三日間ですので、ご参拝は日程表をお確かめの上、お願い致します。

二十二日(火) 『最上稻荷大祭』 午後一時より

二十九日(火) 檀信徒研修会 『唱題行』 午後七時より

☆奉仕のお知らせ

『秋彼岸会の追膳』

十九日(土)〜二十五日(金) 迄一週間

⑩ 『お彼岸の追膳』のお手伝いは一週間、朝【午前六時〜七時半頃迄】夕【午後三時〜五時頃迄】です。で、お手伝い出来ます方は時間迄にご集合下さい。お寺のお手伝いご希望の方は、どなた様でも歓迎致しますので、どうぞお気軽にお出下さい。

二十二日(火) 『最上稻荷様大祭』のお手伝い

教宣部男性 午前十時半より
 教宣部女性 昼十二時より

*テント・のぼりの設営・供物・祈願の受付等のお手伝い、並びに後片付けをお願い致します。

『永代供養塔』のご供養

境内に安置しています『永代供養塔』『水子観音像』『動物供養塔』の(秋彼岸供養)は、九月二十二日(火)中日の午前十時半より、まず大本堂にて読み上げとご供養をし、その後境内にて再度ご供養致しますので、一緒に参拝出来る方は時間までお越し下さい。時間は三十分程です。

- ◎ 奉仕部長・山田兼補 ◎ 伝道部長・小野正春
- ◎ 教宣部長・杉淵昌三

⑨ 各部員はご奉仕の他に、『秋彼岸会』の午前八時から、『最上稻荷様大祭』の午後一時からの法要に積極的にご参拝して下さい。

霊断

ご自分や家族の中で、色々な困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。日蓮宗に伝わる秘法『九識霊断法』にて解決、ご指導しますのでご安心下さい。なお宗旨・宗派は問いません。 ☎776-5840

『位牌壇』の募集!

- ◎ お寺に『位牌壇』がありますと、毎朝必ずお題目が唱え続けられていきますので、皆様の御先祖や仏様が今後代々に渡り守り続けられていきます。
- ◎ 仏様の御命日に当る日に、諸用や旅行などで不在の時でも、ご予約戴ければ『位牌壇』に追膳、またお経も唱えさせて戴きます。
- ◎ 青森では冬期間お墓参りが出来ませんが、『位牌壇』がありますと、常にお寺にお参りが出来ます。
- ◎ 最近の仕事の関係から、家族が地元に住めずに仏壇を維持出来ない為、『位牌壇』に位牌を預かり青森に帰省した時にお参りをする方も増えています。
- ◎ 現在空いています上位の位牌壇に上がりたい方には数がある限り無料でお譲り致します。三席から特席にも無料で上がれます。

提灯の募集!

「御会式・お正月・鬼子母神大祭」に下げます『提灯』(トローラー)を限定で募集します。作成価格は八千円、年間管理費が二千円なので初年度のみ一万円となります。

あき ひ がん え
秋 彼 岸 会

十九日(土)・二十二日(火)
 二十五日(金)の三日間

於：小本堂

法 要・・・午前八時～九時まで

- * 『法要』は彼岸の入り・中日・明けの三日間ですので、檀信徒の皆様もご注意の上、ご参拝下さい。
 残りのご供養は「朝のお勤め」で読み上げします。



追 善 供 養 (一週間)

先祖代々・各霊位・・・800円

追 膳 (一週間)

位牌堂・永代供養堂・・・3,500円

* 法要に参拝し、お経・お題目を唱えましょう!